

ポスターセッション

【ポスターWEB 公開期間】2月13日(土)9:00～2月28日(日)23:59

【オンライン発表日時】2月20日(土)14:00～16:30

大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する、特色ある教育に関する取組を発表します。

■WEB サイトへのポスター掲載

第26回FDフォーラムポスターセッション特設WEBサイトに、ポスター及び説明動画を掲載します。公開期間中はいつでも視聴・閲覧できます。

※特設WEBサイトはFDフォーラムのシンポジウム・分科会への申込者にのみご案内いたします。

公開期間:2月13日(土)9:00～2月28日(日)23:59

■オンライン発表

Zoomミーティングを使用し、オンラインでポスター発表及び質疑応答を行います。(1グループ10分程度)

特設WEBサイトからZoomミーティングにアクセスいただき、ご入室ください。

発表時間:2月20日(土)14:00～16:30

※入室人数は300名までです。入室は先着順となりますので、混みあって入室できない場合は時間をずらして再度アクセスください。

※オンライン発表のスケジュール等詳細は特設WEBサイトにてご案内いたします。

発表ポスターの概要は、次頁より掲載しております。

1. 京都外国語大学

テーマ	習熟度別クラス編成方法の問題点と改善策の提示 ー機械学習による技能別習熟度を考慮したクラス編成の提示ー	
発表代表者	近藤 睦美:京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 准教授	
連名発表者	西出 崇:小樽商科大学 准教授	
キーワード	習熟度別クラス編成	IR
	機械学習	プレイスメントテスト
発表の概要	<p>京都外国語大学の英米語学科では、英語の必修科目において習熟度別クラス編成を採用している。1年生は入学時のプレイスメントテストとしてTOEIC L&R IPを実施しクラス編成を行っていたが、授業担当者からはクラス内のレベル差など授業運営上の課題がしばしば指摘されていた。本発表ではプレイスメントテストの変更を機に、新たに採用するテストの検証やクラス編成の課題を学科とIRが連携して分析し、これまで見落としていた課題の発見とそれに対する改善策を示す。具体的には、ListeningとReadingの技能別習熟度を考慮せず総合スコアだけでクラスを分割していたため、スキル別にみるとクラス内に比較的大きな習熟度の格差が生じていたこととその原因を示し、改善案として機械学習によるクラスタリングを用いた等質なクラス編成方法を提示する。また、課題の発見や改善案の提示、改善に向けた取り組みにおけるIRの役割や学科との関係、コミュニケーションのあり方についても報告する。</p>	

2. 京都外国語大学

テーマ	外大生による多文化・多言語絵本の読み聞かせプロジェクト	
発表代表者	中山 智子:京都外国語大学 外国語学部 フランス語学科 教授	
連名発表者	吉田 真美:京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 教授	
キーワード	多文化共生	多言語・多文化
	絵本読み聞かせ	地域コミュニティ
発表の概要	<p>本発表では、複言語主義、複文化主義の視点から、外国語大学の学生が、2019、2020年度に京都市立中央図書館で実施した多文化・多言語絵本読み聞かせプロジェクトについて報告を行う。本企画は、大学生が、地域の図書館と連携し、言語・文化の壁を越えた協働活動を通して、多文化共生のあり方について考え、次世代に伝えたいことを模索してもらうことを目的としている。英語・中国語・フランス語・ポルトガル語等、多様な言語を専攻する外国語大学の学生が、様々な言語での絵本の読み聞かせ、ゲームや歌などで多文化・多言語を紹介する活動を通して、観察や学生自身の振り返りから学生及び地域に与えたインパクトについて考察する。また、コロナ禍以前以後の年度を比較し、学生の関係性への構築や多文化共生への思いの変化も検討したい。</p>	

3. 京都外国語大学

テーマ	ロマンス諸語と英語の対応 ー接尾辞による語彙強化の方法	
発表代表者	アイレス・ペドロ:京都外国語大学 ブラジルポルトガル語学科 准教授	
連名発表者	彌永 史郎:京都外国語大学 特任教授 石川 保茂:京都外国語大学 教授 上田 寿美:京都外国語大学 講師 岐部 雅之:京都外国語大学 講師 森田 美里:京都外国語大学 講師 竹下 ルツジェリ・アンナ:京都外国語大学 教授 村松 英理子:京都外国語大学 非常勤講師 久保平 亮:大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻 博士前期課程修了	
キーワード	二言語同時学習	接尾辞
	ロマンス諸語語彙強化	オンライン教材
発表の概要	外国語の学習、とりわけ初習の外国語においては、導入部分で日常的な語彙が用いられることが多く、既知の言語から類推がまったくきかない状態に意欲をそがれる学習者も少なくない。たとえば「学習机、デスク」は「desk(英)、secretária(葡)、mesa de trabajo(西)、scrivania(伊)、bureau(仏)」と日本語や英語から関連が見出せない。しかし抽象語になれば、「university(英)、universidade(葡)、universidad(西)、università(伊)、université(仏)」というように、語幹(universi-)＋接尾辞(-ty, -dade, -dad, -tà, -té) という構造がはっきりし、英語からの類推が容易になる。つまり英語力を一気にロマンス諸語、各言語で生かせることが学習者に容易に理解される。語彙強化をめざし、各言語の音声的な特異性を確実に習得できるような本学自主開発のオンライン教材を紹介、その意義を述べる。	

4. 京都華頂大学・華頂短期大学

テーマ	教員・学生双方の遠隔授業の困りごと ー京都華頂大学・華頂短期大学教育開発センターでの取り組みー	
発表代表者	浅田 瞳:華頂短期大学 幼児教育学科 准教授	
連名発表者	高岡 理恵:華頂短期大学 幼児教育学科 准教授 松尾 章子:華頂短期大学 総合文化学科 教授 塩田 二三子:京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 教授 流石 智子:京都華頂大学 現代家政学部 現代家政学科 教授	
キーワード	遠隔授業	学生の困りごと
	授業の工夫	聞き取り調査
発表の概要	2020年度の授業はコロナ禍の影響によりどの大学も遠隔授業の実施を余儀なくされた。本学においても例外ではなく、5月連休後から遠隔授業が始まり、秋学期も遠隔授業と対面授業の併用がなされている。 いわば強制的に進められた遠隔授業は教員・学生双方に大きな負担がかかることとなった。しかし、双方ともに自分たちの困りごとは自覚しているが、教師は学生の、学生は教師の困りごとは見えにくく、理解しにくい。 本学の教育開発センターでは春学期終了時から教員へのアンケート調査や秋学期の学生への聞き取り調査を通じて、双方の困りごとを明らかにし、それらに対応した取り組みを行ってきた。ポスターセッションでは今年度の遠隔授業にまつわる本センターの取り組みを報告する。	

5. 京都華頂大学・華頂短期大学

テーマ	京都華頂大学・華頂短期大学における授業評価アンケートの実質化に向けた取り組みについて～学生への聞き取り調査を通じて～	
発表代表者	野田 隆生:華頂短期大学 幼児教育学科 准教授	
連名発表者	流石 智子:京都華頂大学 現代家政学部 現代家政学科 教授 学部長 塩田 二三子:京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 准教授 富安 広幸:京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 准教授 松尾 章子:華頂短期大学 総合文化学科 教授 学科長 浅田 瞳:華頂短期大学 幼児教育学科 准教授 高岡 理恵:華頂短期大学 幼児教育学科 准教授	
キーワード	授業評価	学生へのフィードバック
	教育の質	授業改善
発表の概要	<p>本研究では学期毎に行っている授業評価アンケートについて、その内容を精査し、教員の授業改善に向けてより効果的な実施方法や学生へのフィードバックが可能であるのかを検証するものである。</p> <p>今回実施した検証方法は、京都華頂大学・華頂短期大学の4学科より学生を40名選出し、4～5人のグループに分け、授業評価アンケートの内容について1時間ほどの聞き取り調査を行った。本共同研究班で試作した授業評価アンケートと現アンケートに基づき、質問項目の内容や選択肢(五件法、四件法)、自由記述等に関して学生より率直な意見を聞くことができた。</p> <p>今回の報告では、学生への聞き取り調査の結果を踏まえ、そこから抽出された内容を検証し、本学における教育の質の向上に向けた研究の一環であることと授業評価アンケートのあり方について述べるものである。</p>	

6. 京都産業大学

テーマ	楽しみながら学ぶ「多言語・多文化共生空間」 ～京都産業大学グローバルcommons 英語学習支援について～	
発表代表者	城崎 智香子:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 嘱託職員	
連名発表者	杉江 昌子:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 嘱託職員 遠藤 美由樹:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 事務長 岡 和寛:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 事務職員	
キーワード	学習意欲の維持	学習支援
	語学学習	オンライン学習
発表の概要	<p>「グローバルcommons」は、学生自身の興味・関心を基に自ら楽しみながら学ぶ「多言語・多文化共生空間」をコンセプトとして運営している自主学習施設である。11言語の書籍や定期刊行物を自由に閲覧、映像・音声資料を視聴できるほか、従来は学生スタッフによる英会話アクティビティ、授業に役立つスタディスキルの向上や、TOEIC等の英語検定試験スコアアップを目的とした学習支援員による英語ワークショップ等のイベントを定期的に開催していた。2020年度は、春学期中は閉館となり、また秋学期再開後の入館人数制限下において、学習支援員による個別英語学習相談や英語ワークショップをライブ方式とオンデマンド方式のオンラインで実施した。本発表では、グローバルcommonsによる英語学習支援の現状と課題について示す。</p>	

7. 京都産業大学

テーマ	育てる、子どもの科学の芽	
発表代表者	老田 将大: 京都産業大学 サイエンスコミュニケーション研究会サングラス 代表 (京都産業大学 理学部 物理科学科)	
連名発表者	小宮 良介: 京都産業大学 サイエンスコミュニケーション研究会サングラス副代表 (京都産業大学 理学部 物理科学科) 中原 有彩: 京都産業大学 サイエンスコミュニケーション研究会サングラス副代表 (京都産業大学 生命科学部 産業生命科学科) 山下 笑佳: 京都産業大学 サイエンスコミュニケーション研究会サングラス代表 (京都産業大学 生命科学部 産業生命科学科) 木村 成介: 京都産業大学 生命科学部 京都産業大学 サイエンスコミュニケーション研究会 サングラス顧問	
キーワード	サイエンスコミュニケーション	科学教育
発表の概要	<p>京都産業大学サイエンスコミュニケーション研究会サングラスは、理工系 3 学部の学生が集まり 2018 年に結成した団体です。一般の人に科学の楽しさを広めることを目的として活動をしています。</p> <p>私たちが実施している科学体験イベントでは、小学校を始めとする様々な場所に赴き、科学を実際に目で見て、耳で聴いて、体験してもらいます。1 度のイベントに数種類の実験ブースを設けるので、飽きることなく実験を楽しんでもうことができます。</p> <p>現在、こういった科学体験イベントは、接触を避けるため行っていませんが、それに代わる活動として、「科学の森」という小学生を対象とする科学関連のお便りを作成しています。</p> <p>「科学の森」は、2020 年の春から本格的に始めた活動で、身近にある科学について説明したり、面白い実験等を紹介しています。そして、毎月、京都産業大学の近くにある小学校で配布させていただいています。</p>	

8. 京都産業大学

テーマ	学生ファシリテータから見るコロナ禍におけるオンライン授業の満足度と授業運営のあり方の提案	
発表代表者	井ノ口 留菜: 京都産業大学 情報理工学部 2年次	
連名発表者	若林 みお: 京都産業大学 文化学部 4年次 久保 実夢: 京都産業大学 外国語学部 3年次 永春 祐花: 京都産業大学 経営学部 1年次 清水 菜未: 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局 F工房コーディネータ 岡 和寛: 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務局 事務職員	
キーワード	コロナ禍	学生ファシリテータ
	オンライン授業	自己発見と大学生活
発表の概要	<p>京都産業大学では、授業等の支援を担う「学生ファシリテータ(以下、学ファシ)」というボランティアスタッフが活動し、主に初年次向けキャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活」や、新入生を対象とした入学前オリエンテーション等を円滑に進めるための支援(サポート)をしている。特に、「自己発見と大学生活」では、学ファシの存在が新入生に大きな影響を与えるが、今年度はコロナ禍の影響により、オンライン授業になってしまったことで例年とは異なる運営方法となり学ファシの授業への関わり方も変化した。</p> <p>本発表では、このコロナ禍において「自己発見と大学生活」の満足度にどのように学ファシが関係しているのかについて明らかにし、それを元に今後のコロナ禍における授業運営のあり方を、学ファシ視点から提案する。</p>	

9. 京都産業大学

テーマ	グローバル・サイエンス・コースの取り組みについて ～学生リーダー会の勉強会を中心に課題と展望について～	
発表代表者	川崎 さわか:京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 GSC 担当 嘱託職員	
連名発表者	田淵 裕梨:京都産業大学 教育支援研究開発センターGSC 担当 嘱託職員 津野 十紫:京都産業大学 教育支援研究開発センター 事務長補佐	
キーワード	グローバル・サイエンス・コース	学生の自主学習
	グローバル人材の育成	英語学習
発表の概要	<p>京都産業大学は、平成 24 年に文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択され、現在までプログラムを見直しながら理工系 3 学部による取り組みへの支援を行っている。この取り組みは、3 学部共通で専門知識と語学力を備え、国際的にも活躍できる育成を目標としている。英語サマーキャンプや海外渡航プログラム等の正課授業だけでなく、正課外でも、月次勉強会としてセミナーや英語プレゼンテーション発表会を開催している。また自発的な学生組織である学生リーダー会が週次勉強会を開催している。ただし、今年度はコロナウィルス感染症拡大の影響のため、すべてオンラインとなったが、GSC 担当スタッフのサポートにより、基幹となる科目が不開講となるなど困難な状況下でも学習意欲に変わりはない。事業開始から現在までの状況を含め正課外における、理工系 3 学部学生が主体的に取り組んでいる英語学習活動を報告する。</p>	

10. 京都薬科大学

テーマ	コロナ禍における感染予防対策を講じた実験実習の実施報告	
発表代表者	高尾 郁子:京都薬科大学 学生実習支援センター 助教	
連名発表者	金瀬 薫:京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 高田 哲也:京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 徳山 友紀:京都薬科大学 学生実習支援センター 助手 河野 享子:京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 平山 恵津子:京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 木村 徹:京都薬科大学 学生実習支援センター 准教授 藤原 洋一:京都薬科大学 学生実習支援センター 教授	
キーワード	実験実習	薬学教育
	COVID-19	感染予防対策
発表の概要	<p>薬学では薬を中心とする科学を多面的に理解するために、物理、化学、生物の基礎科目とそれらを基盤とする多様な領域の応用科学を学ぶ。さらにその理論学習を「知識」・「技能」・「態度」として総合的に修得するために実験実習が実施されている。京都薬科大学では 6 年制薬学部 1～3 年次生(1 学年約 360 名)に 15 科目の実験実習を実施している。すべて必修科目であり、通常、約 90 名の学生を教員 4 名で指導している。しかしながら、今年度は COVID-19 感染拡大に伴い、感染予防対策を講じた上で実習を実施することとなった。</p> <p>本発表では、コロナ禍における実験実習で実施した感染予防対策の概要を中心に、学生の反応や実施に伴う問題点について報告する。</p>	

11. 同志社女子大学

テーマ	学内研究会における取り組み —「経済研究会」における活動の紹介—	
発表代表者	大倉 真人:同志社女子大学 現代社会学部 社会システム学科 教授	
キーワード	学内研究会	フリーペーパー
	自発的学習	
発表の概要	<p>本報告では、報告者が同志社女子大学に赴任してから顧問をつとめている「経済研究会」における取り組みを紹介する。</p> <p>「経済研究会」は同志社女子大学内にある「現代社会学会」に所属する学内研究会の1つであり、報告者が所属する現代社会学部の学生で構成されている。現在では、研究会に所属するメンバーが興味を持ったテーマについて調査を行った上で、その調査成果をフリーペーパーとして刊行した上で、毎年 11 月に実施される学園祭(EVE祭)で配布することを主たる活動としている。</p> <p>本報告では、2016 年度から 2020 年度までの 5 年度において刊行したフリーペーパー「うえるたな」「Do job」「ちょこらぼ」「2025」「女子大生の♡♡事情」にかかる制作活動を中心に「経済研究会」における取り組みを概観する。</p>	

12. 立命館大学

テーマ	モニタリングとレビューに基づく内部質保証システム	
発表代表者	鳥居 朋子:立命館大学 大学評価・IR 室 副室長／教育開発推進機構 教授	
連名発表者	仲 真紀子:立命館大学 大学評価・IR 室 室長／総合心理学部 教授 増田 至:立命館大学 事業計画課 課長 金剛 理恵:立命館大学 事業計画課 課長補佐	
キーワード	内部質保証	IR
	モニタリング	レビュー
発表の概要	<p>立命館大学では、全学—教育プログラム(学部・研究科等)—授業という重層的な構造を基本としつつ、教学、教育研究等環境、入試、学生、社会連携、大学運営・財務といった分野・領域ごとに内部質保証システムを活用しており、根拠に基づく検証を経て、取り組みの改善・向上に向けた次期課題の抽出・特定を行っている。なおかつ、その過程では全学協議会等を通じて学生のニーズを反映させる仕組みを制度化している。現在、2018 年度の第 3 期認証評価の受審結果をふまえ、教職協働や学生参画によって内部質保証システムの有効性を高めている。具体的には、モニタリング(毎年度行うデータ収集等による効率的な点検・評価)とレビュー(モニタリングによって得られたデータや点検・評価結果等をふまえた総合的な点検・評価)による効率的かつ効果的な内部質保証の推進である。本発表では、これまでの到達点および今後の課題について検討する。</p>	

13. 立命館大学

テーマ	大学で行う国際交流と国際理解 —「留学生」「国内学生」の枠組みを超えた互いのつながり作り—	
発表代表者	村山 かなえ:立命館大学 国際教育推進機構・国際教育担当嘱託講師	
連名発表者	小林 優太:立命館大学 政策科学部 3 回生/OIC TISA 前代表 佐藤 唯:立命館大学 経営学部 3 回生/OIC TISA 前副代表 熊野 亜佑美:立命館大学 経営学部 2 回生/OIC TISA 代表 出竿 幸伸:立命館大学 経営学部 3 回生/SBJP バディ代表 前田 和希:立命館大学 経営学部 3 回生/SBJP バディ代表 西村 龍羽:立命館大学 経営学部 3 回生/OIC インターナショナルハウス レジデントメンター 治川 可南子:立命館大学 政策科学部 2 回生/OIC BBP マネジメントスタッフ リーダー 岩田 千咲:立命館大学 政策科学部 2 回生/OIC BBP マネジメントスタッフ	
キーワード	大学生によるピア・サポート	国際交流・国際理解
	留学生(国際学生)と国内学生	正課外活動での学び
発表の概要	本発表では、正課外で国際交流を行う大学生の活動実践をもとに、日本の大学で行える国際交流・国際理解活動について検討する。2015 年に開設された立命館大学大塚いばらきキャンパス(OIC)に所属する国際系学生ピア・サポートグループ4つ(正規留学生へのサポート「TISA」、超短期受入留学生へのサポート「SBJP バディ」、混住型国際寮入居学生へのサポート「インターナショナルハウス レジデントメンター」、グローバルコモンズ運営「BBP マネジメントスタッフ」)の活動事例を取り上げ、多様な背景を持つ他者との学びと、各団体間の連携構築、大学生達が主体的に行える国際交流・国際理解活動と学生ピア・サポートの意義を考察する。加えて、コロナ禍における活動報告を交えながら、「留学生」「国内学生」の枠組みを各学生ピア・サポーターはどのように捉え、自分達の日頃の活動に反映させているかについても探究する。	

14. 龍谷大学

テーマ	文学部における AL 型授業の新たな実践 —「ことば」を活かした人文学と社会との連携—	
発表代表者	野呂 靖:龍谷大学 文学部 准教授	
連名発表者	寺田 詩麻:龍谷大学 文学部 准教授 内田 智子:龍谷大学 文学部 講師 滋野 正道:龍谷大学 文学部 教育プログラム研究開発補助員 非常勤講師 池田 希実子:龍谷大学 文学部 仏教学科 4 回生 恩田 清範:龍谷大学 文学部 教務課 職員	
キーワード	人文学の活用	PBL
	社会連携	学科専攻横断型学修
発表の概要	龍谷大学文学部において実施している「地域情報誌の発刊」および「地域・商品ブランディング」を通じた新たな教育プログラム(Letters based active learning:人文知を基盤とするプロジェクト型学修)の成果とその課題について報告する。人文系諸領域の専門教育は、しばしば教員による一方的な知識伝達型の講義になりやすく、双方向的な学修や、課題解決型の学修方法を取り入れにくい傾向にある。そうしたなか、本学文学部では 2017 年度より、人文系の異なる学科専攻(宗教学、哲学、歴史学、言語学など)に所属する学生らが、キャンパス周辺地域(京都市下京区)の多様な地域資源について調査し、取材・執筆・編集までの全てのプロセスを担当する地域情報誌の発刊を行ってきた。また 2019 年度より自治体や企業連携での地域・商品ブランディングに取り組んでいる。本発表では、「人文知」を基軸とした、「ことば」と「社会」をつなぐプロジェクト学修の実践と課題について報告する。	

15. 龍谷大学

テーマ	文学部における学科専攻横断型・初年次教育の実践 －人文学への入門と社会の接続を目指して－	
発表代表者	滋野 正道: 龍谷大学 文学部 教育プログラム研究開発補助員 非常勤講師	
連名発表者	内田 准心: 龍谷大学 文学部 講師 平 真麻: 龍谷大学 文学部 英語英米文学科 3 回生 恩田 清範: 龍谷大学 文学部 教務課 職員	
キーワード	人文学への入門	初年次教育
	学科専攻横断型学修	学生チューター
発表の概要	<p>龍谷大学文学部では、宗教学、哲学、心理学、歴史学、文学、言語学を学ぶ7学科6専攻を設け、各学問領域を専門的に学べる事が特徴である。各専攻においては、基礎的なアカデミックリテラシーを修得する科目(基礎演習)が展開されているが、専攻での学びを横断的に共有し、学び合う機会は多くない。そこで、2017年度から学科専攻を超えた学修者で構成される新たな初年次教育プログラム「文学部共通セミナー(スタートアップコース)」を展開している。人文学への入門を目的に、学部先輩チューターとの座談会や、自大学を知るためのポスターづくりに取り組んでいる。加えて、2019年度からは「文学部プロジェクト実践入門演習」を開講し、人文学の学びを実社会で活かすことを目的にした課題解決型プログラムを試行実施している。各科目には先輩チューターがファシリテーターとして参画している。本報告ではこれらの実践について分析し、報告する。</p>	

16. 大阪医科大学

テーマ	学生主体の研究会方式によって実現したオンライン・オープンキャンパス	
発表代表者	宇都山 遥:大阪医科大学医学部 5 年生	
連名発表者	浅野 広中:大阪医科大学 医学部 6 年生 阿部 譲:大阪医科大学 医学部 6 年生 佐川 峻一:大阪医科大学 医学部 6 年生 岡崎 早也圭:大阪医科大学 医学部 4 年生 佐野 詠里子:大阪医科大学 医学部 4 年生 志水 梨紗:大阪医科大学 医学部 4 年生 服部 風羽子:大阪医科大学 医学部 4 年生 北村 薫:大阪医科大学 医学部 1 年生 仲宗根 遼太郎:大阪医科大学 医学部 1 年生 藤井 翔大:大阪医科大学 医学部 1 年生 石原 美英:学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 高橋 七枝:大阪医科大学 学務部 看護学事務課 堀江 雅彦:大阪医科大学 学務部 入試・広報課 廣瀬 善信:大阪医科大学 医学部 病理学教室 教授 栃澤 健史:大阪医科大学 医学部 IR 室 特務講師	
キーワード	正課外活動	プロジェクト学習
	アクティブラーニング	eラーニング
発表の概要	大阪医科大学医学部のオープンキャンパスでは、プログラムに学生主体のイベントが組み込まれており、募集によって集まった学生スタッフがイベントの企画運営に積極的に参加してきた。2020年度はCOVID-19の感染防止対策のため、例年通りのオープンキャンパスが実施不可能になったが、前年度より始動したオープンキャンパス研究会のメンバーが、ほぼ毎週開催されるオンライン・ミーティングの議論によって、大学紹介の動画作成を行ったり、入試ホームページにおけるコンテンツの提案を行ったりすることで、オンラインだからこそ可能になるオープンキャンパスの形を実現すべく、教職員スタッフと協働してオンライン・オープンキャンパスを開催してきた。こうした一連の正課外の実践的活動を通じた学習内容と学習成果について報告する。	